

5校で取り組むICT活用 (デジタル教科書)での授業改善

—拠点校を中心とし地区で連携した教員研修体制の試行—

兵庫県西宮市立小学校北地区ICT推進委員会
(西宮市立 山口小学校、北六甲台小学校、名塩小学校、東山台小学校、生瀬小学校)

〒651-1413
兵庫県西宮市北六甲台5丁目4番1号 (代表・北六甲台小学校)

<http://kusunoki.nishi.or.jp/school/krokkoe/>

1. 研究の背景

拠点校である北六甲台小学校は、平成23・24年度の2年間、パナソニック教育財団特別研究指定校として「学びを深める子どもの育成～デジタル教科書の活用で基礎学力の定着を図る～」というテーマのもとICT活用の実践と研究を積み重ねてきた。

その実績が原動力の一つとなり、平成25年度には西宮市全40公立小学校にデジタル教科書が導入される運びとなった。

西宮市の北部、北地区に位置する5校は、児童の実態や教職員組織の構成などに共通点が多い。また、各校とも西宮市の研究指定を受け、熱心に研究に取り組む土壌も共通している。まず、北地区5校で研修を深めICT活用の研究成果やノウハウを普及することが、北地区のひいては西宮市全体の教員の指導力向上と児童の学力向上にとって重要であると考え、北地区5校の研修を進めることとした。

2. 研究の目的

(1) 拠点校によるデジタル教科書 (ICT活用) の研究成果やノウハウの普及

拠点校 (北六甲台小学校) の2年間で習得・研究してきたICT活用の成果を他校に伝え、共に研修を深める機会とする。

(2) 各学校の研究を大切にしながらICT活用というリングでつながり、研修をすすめる。

北地区5校は、それぞれに校内研究テーマをもっている。

より良いICT活用 (デジタル教科書) という視点でなら、つながり得る。

(3) 各学校の授業研を公開し、5校が交流する。

各学校が実施する校内授業研を公開し、それぞれの研究テーマを尊重理解し、互いに学習し合う。また、授業の中でのデジタル教科書をはじめとするICTの効果的な活用について交流し、教材や授業に対する見方や考え方を広げる。

(4) 若手教員の育成

近年、職員集団の若手の占める割合が大きい。授業力の育成が必至の課題である。

児童の思考を予想し、実情に沿った学習展開を作る力、より効果的に ICT 活用を組み込んだ授業づくりに取り組もうとする力量や意欲を培うこともねらう。

3. 研究の方法

(1) 北地区校長会議 (ICT 推進委員会) による枠組み・役割づくり・・・月 1 回開催

(2) 担当者会 (各校研究担当者・情報担当者)・・・全 8 回開催

各学校の情報交換。5 校全体のワークショップや研究会の計画。

(3) 各学校の研究授業を公開・・・年間各校 2～4 回開催

北地区の教員が自主的に参加。

(4) 新任教員 (1 年次、2 年次) の研修

校長会の主催により実施。

4. 研究の内容・経過

年間計画と実践は、以下の通りである。

各学校の研究会の交流や担当者会。

そして、北地区 5 校の教員が一堂に会する 3 つの研修会をもつことができた。

(1) 第 1 回北地区ワークショップ研修 5 / 1 6

第 1 回目の 5 校合同での研修は、拠点校である北六甲台小学校で実施した。

まずは、「デジタル教科書や ICT 機器を取り入れた授業実践の紹介」。そして、「実際に体験してみよう」という趣旨で北六甲台小の教員が授業実践を紹介した。(※①)

2 2 本の実践を各学年で紹介するとともに、3 名の教育委員会の指導主事からも指導助言をいただきながら、和やかな雰囲気での研修会を実施することができた。

(2) 第 2 回北地区ワークショップ研修 (ICT 全体研修会) 8 / 2 9

第 2 回は会場を東山台小学校に移し、デジタル教科書を活用した授業公開を行った。(※②)

各学年及び特別支援学級で 2 学期以降に実践する予定である 2 1 本の授業略案を各校が持ち寄り、提案・交流を行った。

「2 学期からの提案授業」といった趣旨であったため、各教室では活発に意見を交流する姿が見られた。特に ICT 活用にかかわる場面での意見は、第 1 回のワークショップと比べて、具体的な内容の発言が数多くあった。

(3) 北地区合同公開研究会 2 / 2 1

第3回は、北六甲台小学校を会場とし、5校の教員による授業公開を行った。(※③)

各学年及び特別支援学級で全11本の授業公開。また、授業後の分科会では実践報告もまじえて、ICT活用を軸とした協議の場を持つこともできた。

全体会では、講師である和歌山大学准教授豊田充崇先生のご講演「教育の情報化のこれまでと今後の展望」に学ぶことができた。

市内、そして広く市外や県外からも200名を超える参加者を得た。

☆年間計画と実践☆

月	内容・方法（メディア活用なども含めて）			
4				
5	5/16 ワークショップ研修 ※① （対象：北地区教員全員） テーマ：デジタル教科書や書画カメラ等を 活用した授業づくり 場 所：北六甲台小学校		新任教員（1年次、2年次）研修 ※年間6回開催	公開授業研（各校の研究授業）※年間各校2～4回開催 北地区教員が自主的参加
6				
7				
8	8/29 ワークショップ研修 ※② （対象：北地区教員全員） テーマ：デジタル教科書を活用した 2学期教材の研究 場 所：東山台小学校			リーダー研修会（研究・情報担当）※年8回開催
9				
10				
11	2/21 北地区合同公開研究会※③ （対象：北地区教員全員） テーマ：デジタル教科書を活用した 授業公開			ICT推進委員会（北地区校長会議）及び管理職研修（北地区教頭会議）※月1回開催
12				
1				
2	教員研修資料集作成 （教員向け研修教材・ワークシート等）			
3				

5. 研究の成果

- 3回のワークショップ研修を通して、5校のつながりが持てたこと
- 担当者の交流により、各学校の研究が開かれたこと
- 各学校の校内研を開いていくことで、授業力やICT活用についての学びを多く得たこと
- 拠点校が2年間かかって得たことに、4校が1年でたどり着けたこと
- 研修を通して、(ある程度の強制力が働いたこともあり、)各学校の教員のICTの活用度がアップしたこと
- 「子どもにICT機器を操作させる」というこれからの方向性が見えたこと



ワークショップ研修のようす

6. 今後の課題・展望

(1) 効果的な活用とその共有

1年間の取り組みを経た現時点。‘授業構成力のある教師こそがデジタル教科書（ICT機器）を効果的に使うことができる’ということが分かった。物珍しさに、画面を見ただけで目を輝かせていた児童も、慣れると興味を示さなくなったという現実もある。今後は、デジタル教科書（ICT機器）活用に関する情報をいかに多くの教師が共有するかが、授業改善の鍵となるものと考えている。

(2) 教員研修体制の今後

各校の校内研究テーマは、それぞれの児童の実態や課題から生み出され、独自性の高いものである。そして、今回のICT活用研修体制は、各校の研究をつなぐ“橋渡し”としての役割を果たすとともに、各校における授業改善や学力向上を図る仕掛けとして機能することを期待し、手探り状態でスタートした。拠点校のノウハウを伝えることで、他校の教員は、半年でデジタル教科書に対する抵抗感がなくなり、ツールとしてどう効果的に利用するか、という意識も短期間でもつことができた。また、5校の担当者が定期的に集まることで互いに交流を深め、自校の研究内容や体制等について客観的に見つめることができる視点をもつようになったと考える。

今後は、ICT活用に限らず、教科や校務分掌担当者レベルで近隣校が連携し、特に若い年齢層が情報共有を積極的に行うとともに、技術の向上を図るフレキシブルな研修体制づくりや交流が必要となると考える。

(3) 来年度からのつながり

今年得た機会やつながりを今後も継続させていきたい。

研究テーマがそれぞれ異なる5校がつながって研修の機会をもっていくには、まずは「ICT 機器」というリングが有効だと思われる。

今後も、テーマを「子どもが活用していく ICT」等に設定し、タブレットなどに視点を絞り、北地区5校でアイデアを共有する会を年に1回はもつことにしたい。(8月末に実施)

7. おわりに

試行錯誤の取り組みであったが、取り組みを振り返って何よりも良かったと思えることは、「ICT活用というリングを通して、5校の教員がつながることができたこと」である。研究を公開することで、学校をつながり。3回の大きな研修を通して、教員同士の情報アイデアの共有をするつながり。また、5校の研修を計画したり、学校の情報交換をしたりすることで担当者同士のつながり。・・・これらのつながりが、ひいては、教員一人一人のステップアップにつながることを実感した1年であった。

このような機会をいただいたことに感謝し、今後の取り組みにつなげていきたい。